『かいだん』

作・文月奈緒子

登場人物　男
　　女

舞台中央に脚立とパイプ椅子が並んで置いてある。
脚立の一番上には携帯電話を持った女が、椅子には男が座っている。
男はゆっくりと立ち上がると、脚立と椅子の周りをグルグルと歩き出す。

女　下にはあの人がいる。あの人の気配がする。

女、脚立を蹴って鳴らし始める。

男　上にはあいつがいる。あいつの足音が聞こえる。
女　私たちは同じ場所にいる。
男　いるはずだ。
女　いる。
男　上に
女　下に
男　いる
女　気配がする。
男　足音が聞こえる。
女　確かめなくてもわかる。
男　確かめなければわからない。
女　わかりきった事なのに
男　わからない。

女、脚立を大きく鳴らし、蹴るのを止める。
男、立ち止まる。

女　わからない？
男　……
女　それなら話し合いましょう。私達。
男　……
女　お互いにわかりあえるまで
男　…そんなのは無理だ。
女　無理じゃない。無理じゃない。大丈夫。きっと大丈夫。
男　……
女　だって話し合う時間があるもの、私達。夜は…始まったばかりだから

女の携帯電話が鳴る。
女、ゆっくりと脚立から降り始める。

暗転。

うっすらと灯りが点く。
女が脚立の一番下にうつむいて座っている。
男が下手から現れ、歩きながら電気をつけるしぐさをすると、舞台がパッと明るくなる。
男、女を見て驚き、立ち止まる。

女　（顔をあげて）おかえりなさい。
男　大丈夫か？
女　どうして？
男　灯りも点けないで、こんなところに
女　ちょっとね。
男　具合が悪い？
女　どうして？
男　顔色が悪いから。
女　ちょっとね。
男　ああ。今日は病院か。
女　うん。

女、立ち上がる。

男　…辛いなら止めようか。
女　どうして？
男　もう限界だろ。
女　どうして？
男　だから
女　どうして？今まで止めろなんて言わなかったじゃない。
男　だけどそろそろあきらめた方が
女　どうして？
男　どうしてって…意地になってどうする。このままじゃ身体を壊す。
女　私の身体のせいであきらめるって？
男　そういう意味じゃなくて
女　本当はもう欲しくないからでしょ。
男　欲しいよ。でも身体の方が大切だ。
女　嘘。今、子どもができたら大変だもんね。
男　大変って
女　私と別れるのが。
男　別れる？

女、携帯電話を操作して、男に渡す。

女　その番号
男　……
女　知ってるでしょ。
男　……
女　（携帯電話を奪って）知らないって言うならリダイヤルするけど
男　…番号。どうやって
女　携帯、見たって
男　……
女　最低。色々と。
男　あのさ
女　何？
男　むこうが何を言ったかわからないけど
女　わからない？そんなはずないでしょ。
男　……
女　検討くらいつくはずよ。
男　だけど、たぶん…色々と誤解があるような気がする
女　誤解？

男から携帯電話を奪い操作して、再び男に渡す。

女　だったらこの写真はなに？
男　……
女　まさか合成って言わないよね？
男　これは…これはちょっとした気の迷いで
女　気の迷いで三年も？
男　……
女　三年は長いよね。我慢できなくなって電話もしたくなるわ。私と別れるって言ってから二年以上も経つらしいし
男　……
女　何度も別れるって言ってるんだって？私は初耳なんだけど？
男　それはさ
女　私と別れて結婚したいんでしょ。だけど私が離婚に応じなくて困ってるんでしょ。家事もろくにしない。子どもも作らない。どうしようもない女なんでしょ。私は！
男　…そこまでは言ってないよ。
女　じゃあ、どこまで？
男　……
女　どこまで？
男　…ちょっと
女　ちょっと？
男　…別れ話を

女　誰と？
男　むこうとだよ。そう、むこうと別れ話をしたら、その腹いせに
女　どうして別れるの？別れるのなら私とでしょ。間違って結婚したらしいから
男　そんなこと言うなって。
女　そんなこと言ったのはあなたじゃないの！（男から携帯電話を奪って）違うって言うんなら確認しようか？
男　……
女　ねえ！
男　落ち着いてくれ。
女　落ち着いてる。
男　話をしよう。
女　どうぞ。
男　…俺はお前と別れる気はないし
女　（携帯電話を突き出して）だったらむこうにそう言って。
男　…別れ話を電話でするのも
女　むこうは電話で言ってきたんだけど？別れてくれって。
男　…あのさ。
女　何？
男　話をしよう。
女　だからどうぞ。
男　……
女　言う事ないんだったら、私から言うね。私、慰謝料、請求するから。
男　誰に？
女　むこうに決まってるでしょう。
男　それだけは止めてくれ。
女　どうして？
男　俺が悪いんだ。
女　かばうんだ。
男　そうじゃない。
女　むこうの方を守るんだ。
男　そうじゃない。
女　そうでしょ。
男　そうじゃなくて慰謝料なんて大げさすぎるよ。
女　大げさ？当然の権利でしょ？
男　そうかもしれない。そうかもしれないけど……
女　けど？
男　俺も悪いんだし
女　やっぱりかばうんだ。
男　かばってないって
女　仕方ないよね。私とは別れるんだし
男　俺は別れないって。
女　じゃあ、どうしてかばうの？
男　だからかばってないよ。

女　だったらどうして俺が悪いって！？
男　そういう意味で言ってるんじゃないんだ！
女　じゃあ、どういう意味よ！？
男　落ち着けって！

男、女の手をつかもうとする。

女　（男の手を振り払って）触んないで！！
男　…出ていくのか？
女　私が？どうして？
男　だって別れるって
女　私は言ってないわよ。それともそう言って欲しい？
男　むこうとは別れる。
女　信じられない。

脚立に登ろうとする女を男が追う。

女　来ないで！
男　……
女　私はしばらく上で生活するから、あなたは下で生活して。もし二階に上がってきたら…出ていくから。

女、脚立に登り、一番上に座る。
男、脚立に足をかけるが、思い直して足を下ろす。
女、それを見て、いらだたしげに脚立を大きく蹴る。
男、脚立と椅子の周りをグルグルと歩き始める。
女、脚立を何度も蹴り始める。

男　ただいま。
女　おかえり。無理して早く帰って来なくてもいいのに。
男　ただいま。
女　おかえり。今日はどうして遅いの？
男　ただいま。
女　おかえり。無理して早く帰って来なくてもいいのに。
男　ただいま。
女　おかえり。今日はどうして遅いの？
男　ただいま。
女　おかえり。無理して早く帰って来なくてもいいのに。
男　ただいま。
女　おかえり。今日はどうして遅いの？
男　ただいま。
女　おかえり。無理して早く帰って来なくてもいいのに。
男　ただいま。

女　おかえり。今日はどうして遅いの？

女の持っている携帯電話が鳴る。

男　（パイプ椅子に座り、顔を覆って）俺はいったいどうすればいいんだ！

女　どうするって（ゆっくりと脚立を降りながら）話し合いましょうか？

男　ああ。聞いてくれ、俺は

女　（男の言葉をさえぎって）そうじゃなくて。話し合うの。これからの事。

男　これから？

女　慰謝料の話も途中だったし

男　だからさ、それは無理だって

女　無理じゃないわよ。本人が払うって言ってるんだから

男　え？

女　慰謝料なら払います。だから別れて下さいって

男　……

女　３００万。

男　え？

女　あなたの値段。むこうが３００万なら払えるって。

男　何か…何か勘違いしてるんじゃないかな？

女　勘違い？

男　俺は別れるって

女　私とね。

男　だからそれはむこうが勘違いして

女　別れる女がどうして毎日お弁当を作ってくるの？

男　……

女　夕飯も。

男　夕飯までは食べてない。

女　だったらお弁当は食べてるんだ。

男　……

女　きっかけはお弁当だったんだってね。むこうが持ってくるお弁当を見て、うちのは弁当なんか作ってくれないって。

男　……

女　私、結婚する時に言われたんだけど。俺は結婚したとたんに弁当を持ってくるような所帯じみた男にはなりたくないって。だから弁当はいらないって。なのにどうして頼んでも作ってくれないになっちゃったの？

男　軽い冗談だったんだよ。なのに本気にして作ってくるから

女　だったら断ればいいじゃない。あれは冗談だって。

男　断っても作ってくるんだよ。

女　で、別れるって言っても、作ってくるわけ？

男　しつこいんだ。

女　嘘ばっかり！本当は別れ話なんてしてないくせに

男　むこうの言うことばかり信じるなよ。

女　嘘つきの言う事なんか信じられない！出張も残業もほとんどが嘘だったくせに！

男　……
女　旅行先で私へのお土産を二人で選んだんだってね。
男　…土産くらい買わないと悪いと思って
女　そう。で、どんな話をしながら二人で選んだの？
男　……
女　ねえ。
男　普通の話だよ。
女　（笑って）不倫関係の普通って？
男　……
女　私の事、バカにしてたんでしょう。
男　してないよ。
女　少しも疑わない鈍い女だって。
男　言ってないって。
女　私、むこうに言われたんだけど？全く気が付かなかったなんてよっぽど鈍いか、ご主人に関心がないんですねって。
男　……
女　正直言って、あれ？って思った事は何度かあったよ。でもあなたの事を信用して…
男　ごめん。
女　……
男　とにかく本当に別れるつもりなんだ。だけどあんまりはっきり言うと
女　はっきり言わないとわからないでしょう？
男　でもあんまりはっきりと言いすぎて、騒がれたら困るだろ。
女　困るって誰が？
男　困るよ。同じ職場なんだから。もし周りにバレたら
女　何言ってんの？皆、気がついてるに決まってるじゃない。小さな会社なんだから
男　いや。それは大丈夫。誰にも聞かれたことないし
女　聞いてくるわけないでしょう。誰だって他人のトラブルに巻き込まれたくないもの。そんな事に気が付かないなんて、あなたの方がよっぽど鈍いんじゃない？
男　……
女　でしょ？
男　…それでもやっぱり騒ぎになるのはまずいよ。
女　本当は別れる気なんてないくせに
男　別れるって。だから慰謝料とか
女　ああ！そういう事！！むこうに慰謝料を払わせたくなくて
男　違うって

男、女の手をつかもうとする。

女　（男の手を振り払って）触んないで！！

女、脚立に足をかける。

男　俺は別れない。
女　（脚立に登りながら）どっちと？
男　お前と
女　嘘ばっかり
男　本当だよ。
女　今までさんざん騙して
男　もう嘘はつかない
女　（脚立の上に座って）信じられない
男　（脚立と椅子の周りをグルグルとまわりながら）本当だよ。
女　（脚立を蹴りながら）今までさんざん騙して
男　もう嘘はつかない
女　信じられない。
男　本当だよ
女　今までさんざん騙して
男　もう嘘はつかない
女　信じられない。
男　本当だよ
女　今までさんざん騙して
男　もう嘘はつかない
女　信じられない。
男　本当だよ
女　今までさんざん騙して

女の携帯電話が鳴る。

男　（パイプ椅子に座り、顔を覆って）信じてくれよ！
女　じゃあ（ゆっくりと脚立を降りながら）話し合いましょうか？
男　ああ。聞いてくれ、俺は
女　（男の言葉をさえぎって）そうじゃなくて。話し合うの。これからの事。
男　これから？
女　慰謝料の話も途中だったし
男　またその話か。
女　だってね。むこうが聞いてくるの。３００万じゃ足りないんですかって
男　……
女　５００って言ったら出すのかな？
男　５００は無理だろ。
女　じゃあ、３００で手をうつわ。
男　いや３００とか５００とかそういう問題じゃなくて
女　慰謝料を取るなって？
男　別にかばっているわけじゃないよ。ただ金で解決ってなんか違う気が
女　じゃあ、何で解決するの？
男　話し合いで

女　で、むこうとさんざん話し合った結果が「３００万じゃ足りないんですか」なんだけど
男　……
女　もう嘘はつかない、か。お弁当、美味しい？
男　貰っても返してる。
女　そう。
男　本当だよ。
女　そう。
男　本当だって。
女　（携帯電話を操作して、男に渡すと）聞いてみて

男、携帯電話を耳に当てる。

女　写メはさすがに撮らせてないみたいだけど、録音はね。こっそりできるし
男　これは…この日はたまたま
女　本当にバカよね、男って。
男　…あのさ
女　あのさ？言い訳なら（男から携帯電話を奪って）他のも聞いてからにして

女、携帯電話を操作する。

男　止めてくれ。充分だ。
女　そんなこと言わないで

男、女が渡そうとした携帯電話を叩き落とす。

男　（椅子に座って）もう勘弁してくれ。
女　（携帯電話を拾って）まさかむこうに裏切られたって思ってる？
男　……
女　だよね。裏切られたのは私なんだから
男　……
女　じゃあ、話し合いの続きをしましょうか。
男　これは話し合いなんかじゃない。一方的で…まるで裁判だ。
女　人聞きの悪い。
男　だってそうだろ。俺の話なんて少しも聞かないじゃないか！
女　だって嘘ばっかりつくから。
男　もう嘘は言わない。
女　本当？
男　ああ。
女　だったら私の質問に正直に答えてくれる？
男　ああ。
女　なんて言って口説いたの？どのくらいのペースで会っていたの？どこで会っていたの？どんな風に愛し合ったの？

男　……
女　正直に答えなさいよ。さあ。
男　…勘弁してくれ。
女　答えになってない。
男　答えられるわけないだろ。
女　どうして？
男　あいつとは本当に別れるから
女　じゃあ、今までは本当に別れる気がなかったんだ。
男　どうしてすぐにそういう事を言うんだ！
女　あなたが言わせるんでしょ。
男　とにかく別れる。絶対に別れる。
女　でも慰謝料は貰うから。
男　勝手にしろ。
女　もうかばわないの？
男　最初からかばってない。
女　薄情ね。
男　…嫌な女だな。
女　あなたがそうしたんでしょ。それとも私がもともと嫌な女だから浮気をしたって？
男　俺が悪い！俺が悪い！俺が全部悪いんだ！！
女　逆切れしないでよ！話にならない！！

女、脚立を登って上に座る。
男、崩れるように椅子に座る。

男　話にならないのはどっちだよ。
女　（脚立を蹴りながら）あなたでしょ。
男　おまえだ。
女　人のせいにしないでよ。話にならない。
男　（脚立と椅子の周りをグルグルと歩きながら）話にならないのはどっちだよ。
女　あなたでしょ。
男　お前だ。
女　人のせいにしないでよ。話にならない。
男　話にならないのはどっちだよ。
女　あなたでしょ。
男　お前だ。
女　人のせいにしないでよ。話にならない。
男　話にならないのはどっちだよ。
女　あなたでしょ。
男　お前だ。
女　人のせいにしないでよ。話にならない。
男　話にならないのはどっちだよ。
女　あなたでしょ。

男　お前だ。
女　人のせいにしないでよ。話にならない。話にならない。話せば話すほど話にならない。

女の携帯電話が鳴る。

女　それでも…（ゆっくりと脚立を降りながら）だから私達…話し合わないと。
男　むこうとは別れた。
女　そう。
男　どうせ信じないんだろ。
女　信じるわよ。嫌がらせの電話がすごいから。
男　……
女　首になりそうなんですって
男　会社でひと暴れされたからな。まるで俺だけが悪いみたいに
女　言い訳したらいいじゃない。得意でしょ？言い訳。
男　……
女　ただすぐにばれるような言い訳しかできないけどね。
男　…いい気味だと思ってるんだろ。
女　……
男　俺が無職になったらどうするんだ。
女　…別れようか。
男　無職になったとたんに捨てるのか？
女　そんな薄情な女に見える？
男　じゃあ、どうして？
女　ここまで嫌がらせがひどいと身の危険を感じるじゃない。（ポケットから紙切れを出して）ポストにこんなのも入っていたし。

女、男に紙切れを渡す。

女　これって立派な脅迫よね。

男、紙切れを読むと破り捨てる。

女　証拠隠滅。
男　違う。
女　そうやってむこうの方を守るんだ。
男　またそういう言い方をする。

しばしの沈黙

女　…ねえ。私と別れて、むこうと結婚したら？
男　何を言い出すんだ。
女　そう。それがいい。

男　俺はお前の為に別れたんだぞ？
女　私のせいなの？会社を首になりそうなのも、むこうが嫌がらせしてくるのも
男　……
女　だってこのままじゃ何をされる本当にわからないでしょ。最悪、私は殺されて、残ったあなたはワイドショーのいい餌食。でもむこうと結婚したら嫌がらせはなくなるし。
男　本当にそれでいいのか。
女　もちろん。私はむこうからもあなたからも慰謝料を貰って
男　俺が慰謝料？
女　でしょ。あなたにも責任があるんだから
男　……
女　私は不妊治療の為に仕事も辞めたし、身体もボロボロになった。だから一千万。
男　無理だ！
女　だったら５００万
男　無理だって。
女　じゃあ、いくら？
男　…お願いだからそういう話は
女　ああ。お金が惜しいの？
男　そういう意味で言ってるんじゃない。
女　じゃあ、どういう意味？
男　別れたくないんだ。
女　どうして？
男　どうしてって…愛してるから。
女　私を？
男　決まってるだろ。
女　だったらどうして浮気したの？
男　だから気の迷いで
女　どうして？
男　だから
女　どうしてどうしてどうして！どうして私がこんな目に合わなくちゃいけないの！？
男　落ち着けって！

男、女の手をつかもうとする。

女　（男の手を振り払って）触んないで！！

女、脚立に足をかける。

男　おい。
女　来ないで。私と別れて
男　別れたくない。
女　どうして？
男　愛しているから

女　（脚立の上に座って）嘘。お金が惜しいんでしょ。
男　（脚立と椅子の周りをグルグルと回りながら）本当だ。
女　（脚立を蹴りながら）信じられない。だから別れて。
男　別れたくない。
女　どうして？
男　愛しているから。
女　嘘！お金が惜しいんでしょ。
男　本当だ。
女　信じられない。だから別れて。
男　別れたくない。
女　どうして？
男　愛しているから。
女　嘘！お金が惜しいんでしょ。
男　本当だ。
女　信じられない。だから別れて。
男　別れたくない。
女　どうして？
男　愛しているから。
女　嘘！お金が惜しいんでしょ。
男　本当だ。
女　信じられない。だから別れて。
男　別れたくない。
女　どうして？
男　愛しているから。
女　嘘！
男　本当だ。
女　じゃあ、どうして？どうしてどうしてどうして！
男　どうしてわかってくれないんだ？
女　どうして話せば話すほど

女の携帯電話が鳴る。

男　（パイプ椅子に座り、顔を覆って）もう限界だ…わかった。別れるよ…お前と
女　じゃあ（ゆっくりと脚立を降りながら）話し合いましょうか？これからの事。
男　これから？
女　慰謝料。５００万でいい？
男　ああ。
女　本当にいいの？
男　ああ。
女　前は無理だって。
男　一括は無理でも、なんとかする。
女　分割だったら、利子を含めて７００万。

男　…わかった。なんとかする。
女　そんなに出しても私と別れたいんだ。
男　何言ってんだ！お前が別れたいって
女　そう…そうだけどね。
男　そうだろ。他にどうすればいいんだ。
女　だったらむこうにもそう言ってよ。嫌がらせはどんどんひどくなるし
男　その事は何度もいっているんだ。ただ…
女　ただ？
男　ただお前と別れてもむこうとは結婚しない。できない。無理だ。
女　子どもができたのに？
男　子ども？
女　聞いてないの？子どもができたんだって。だから絶対に別れてくれって
男　…嘘だろ
女　おめでとう。やっと自分の子どもができて。
男　そんな事あるはずないってわかるだろ。精神的におかしくなって、そう思い込んでるだけだ
女　だけど病院に行ったって
男　嘘に決まってるじゃないか。これでわかったろ。むこうは嘘つきだって。
女　あなたもね。嘘つき同士でお似合じゃない？
男　……
女　ねえ。最初の頃は避妊してたけど、ここ一年は避妊してなかったんだってね。お前とは本気だからって。子どもができたら結婚しようって。
男　……
女　ねえ。どんな顔してそんな事言うの？子どもができないのは自分のせいなのに
男　…黙れ
女　笑っちゃう！種無しのくせに！

男、女の手をつかもうとする。

女　（男の手を振り払って）触んないで！！
男　うるさい！黙れ！！

女、脚立に足をかけるが、男は女を脚立から引きずり降ろす。

女　何すんのよ！？

男、女を押し倒して首に手をかける。
女、やっとの思いで男を払いのけ、パイプ椅子を手にする。

女　来ないで！私に触らないで！私に！私に！私と！！

男、脚立を手にする。
女、パイプ椅子を振り上げる。

暗転。

うっすらと灯りが点くと、男と女、脚立とパイプ椅子が倒れている。
男と女、ゆっくり立ち上がる。

女　（脚立を定位置に戻しながら）下にはあの人がいる。あの人の気配がする。
男　（パイプ椅子を定位置に戻しながら）上にはあいつがいる。あいつの足音が聞こえる。
女　私たちは同じ場所にいる。
男　いるはずだ。
女　いる。
男　上に
女　下に
男　いる
女　気配がする。
男　足音が聞こえる。
女　確かめなくてもわかる。
男　確かめなければわからない。
女　わかりきった事なのに
男　わからない。

女は脚立を立てると上に登る。
男、脚立と椅子の周りをグルグルと歩き始める。

男　なんだかずうっと同じ事を繰り返している気がする。
女　（脚立の上に座り）そんな事ない。
男　いつまでも終わらない気がする。
女　（脚立を蹴りながら）そんな事ない。
男　……
女　大丈夫。話し合えばわかる。
男　わかる？
女　わかる。いつか。
男　……
女　だから話し合いましょう。私達。
男　……
女　お互いにわかりあえるまで
男　…そんなのは無理だ。
女　無理じゃない。無理じゃない。大丈夫。きっと大丈夫。
男　……
女　だって話し合う時間があるもの、私達。夜は…始まったばかりだから

女の携帯電話が鳴る。
女、ゆっくりと脚立から降り始める。
ゆっくりと暗転。